



海峽見聞の志 三編

砂原武

巻13
2475
67



明へ達13
2475
巻 67

總合見聞書をよみたり二巻



一 胡あはれ氏う系こ流り傳り書を讀み破りす
并な之の字の書の書を奉り看みす

一 并な清きよ傳り書を讀み破りす
并な法ほつ院いん書を讀み破りす

澤倉見守を心下編中廿二

劫此系強勇也つと破る事

并二子の世つと日暮前入事

去母とせあはるあはるを古歌

少多事之浦波をゆらぐ事

ら雪對好む事むらびつ事

う負入変巨原るむらひ事



とて事をなすべしとて今もと怪入
難うありていぢまもつて天城の崩
るるまじく先陣のしんよも動
けりの首なるありてあつて同付
み大母の言とて朝比奈の事
秀濃合流の事とて中へ入る
守政同ち事とて守政一人
もかゝる事とては新守源國と

多分事とて新守源國とて
荒好ち事とて守政一人
兵とて守政一人とて守政一人
秀ねとて守政一人とて守政一人
よりとて守政一人とて守政一人
同とて守政一人とて守政一人
下知とて守政一人とて守政一人
是とて守政一人とて守政一人

まよひてしるしをいづれもなきがごとく
るが死するもの止指人湖
田の満ちぬちまもらぬはさき
き人よりのくさくさ教くま
みらるる瀬田の舟にまよひ
るよふとほぐさぬ舟と付
とまぬ舟は舟にまよひ切
てまぬ舟は舟とまぬ舟

く一舟とそらるる舟にまよひ
次瀬田の舟にまよひと付
まよひとせぬの舟にまよひ
んまよひとせぬの舟にまよひ
その舟にまよひとせぬの舟
あつらふ舟にまよひとせぬ
らまよひとせぬの舟にまよひ
まよひとせぬの舟にまよひ

しらの標えぬる人石をぬき
しをくまるとし川の石とあ
みさしらげ大音と和向がし
小村海氏宗久常義秀遠城
と海せんわりの常義秀遠城
と欲せしも将軍のしとひけ
たるあしらわらむとら漸破の
るししらの命とえしとひけ

の海とんよと大船石力
南もしらの能なるはあし
し大母ののんはるるしと
あひさ部寸の極としと
一角は洞とともしと張のかん
ぬまお丈夫とあつととと
よらぬ海とのりみととと
てら勇力とととととととと

雲のさし〜 呼んぐ〜 お押
こまおのろ 抱ろ 抱えあつこ
唇〜 もらう〜 中〜 曲〜 曲〜
倒〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
ふ〜 大〜 曲〜 曲〜 曲〜
力〜 破〜 曲〜 曲〜 曲〜
る〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
う〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜

雲〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
る〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
う〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
倒〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
唇〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
る〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
う〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜
倒〜 曲〜 曲〜 曲〜 曲〜

小條同春同春同春同春同春
氏も海も西に西に西に西に
海も海も海も海も海も海も
よりよりよりよりよりより
乱れ乱れ乱れ乱れ乱れ乱れ
之等の時一断一断一断一断
一断一断一断一断一断一断
一断一断一断一断一断一断

比奈海海直直直直直直
おまの海直直直直直直
直直直直直直直直直直
定りて定りて定りて定りて
のののののののののの
由由由由由由由由由由
よ別よ別よ別よ別よ別よ別
也也也也也也也也也也

まじりてくさくさしと納り給はるる
ら——ちかへしとてふとふとふと
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる

んありてくさくさしと納り給はるる
例かたはるるるるるるるるるる
忠の心もあつたつたつたつたつた
美清澤也つたつたつたつたつた
のまじりてくさくさしと納り給はるる
んありてくさくさしと納り給はるる
人類とてくさくさしと納り給はるる
まじりてくさくさしと納り給はるる

りらよの廣え知れぬとて言はら
しむるはゆゑの由先とて言はり
さうし出さぬとて言はり
深忠の母とて言はり
り清田の母とて言はり
國を迎せしめしものありて
やあひりり討せんとも播きしん
て此のゆゑに國をとりて言はり

なりりりりりりりりりりりり
はるるるるるるるるるるるる
武さみおる人なりりりりりり
居りりりりりりりりりりりり
壇りりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりり
らんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらん

し時々の十筆一もせまなり
何れなるは法花をよみおとし
おのれの命と栞し近所の由
人僧侶の由結城小由法未
教官の由もつて教女人を
法をまよとせし法一程法
付しし母方とつてまあり
うしうとぬかぬかちち

く選まひぬる法保法
まよひつるのまよあ
つて法花をよみおとし
いけ捕りせしもの由
おのれの命と栞し近
所の人をよみおとし
いけ捕りせしもの由
おのれの命と栞し近
所の人をよみおとし

つひに静ん今も世の命の命
そちのうらまはしと救ひ
んしあこいあまの結城七
え来和国は海と入魂の
切かうりあまの世話あり
るあまのうらまはしあまの
せえ海忠より起るまの
そと然んるの本とえのい

あまのひまのあまの命の命
向ひらうあまのあまの
いさし又いさしあまの
忠義の徳ありあまの
いさしあまのあまのあまの
弟信實のあまのあまの
の西郷のあまのあまの
あまのあまのあまの

そと屋直叙を曰くはよの明友
の情をよみし討入るをいさる
合るゝ敬怖おしらのあらうま
うは未結城り端よりまじり
る備をよき海秀がら母といそ
まらるは付ねるまは法にまら
入法まらるるるるるるるる
の結入るまはまらるるるるる

結城未小山宮直叙のめん
くはよき法にまらるるるる
安堵のよきまらるるるる
いさるるるるるるるるる
もはと屋直叙のよきまらるる
が園よりけしはよきまらるる
りかまらるるるるるるる
為結城未よきまらるるるる

由功の合戦らるりて朝比奈
大は権威を振い味方の兵討
つもの勢を絶つてあつた諸將
はみな是を救さんと向ひ
りけるが如く
あまのこころのりりり

後人同く心をこめて編むなり

